



簡易ガイド・課題・コンプライアンスのリスク

誰が、何を変更し、確認し、送ったのか？ 今は、人の記憶ではなく、文書に残っています。

顧客監査、認証、内部監査のいずれでも、問われるのは次のことです。誰がアクセスできたか、何が変更されたか、何が外に出たか。この簡易ガイドでは、PaperOfficeがこれらの記録を文書そのものに残す仕組みを説明します。品質管理、コンプライアンス、文書管理のためのガイドです。

一目で

Workspaceごとの保護レベル（透かし付き）、文書ごとの変更履歴、Trust証明書による整合性チェック、保護された配信ごとのイベントログ、ダウンロード後の証明PDF。

01・課題の内容

監査が問いかけます。 ファイルシステムは沈黙したままです。

監査人は、作業指示書を誰が変更したか、試験報告書が変更されていないか、個人データを含む文書をどこへ送ったかを知りたいがります。その答えは、メール、メモ、そして個々の同僚の記憶に埋もれています。事後にそれを証明するのは困難です。

なぜ起こるのか

明確な制限のないアクセス

全員が使う一つのネットワークドライブ、もはや誰も見渡せないフォルダー権限。誰が何を開けるかは、ルールではなく経緯から決まっています。

履歴のないバージョン

文書は上書きされるか、コピーとして保存し直されます。どのバージョンが有効か、何が変わったかを示す履歴がありません。

添付ファイルによる共有

文書はメールの添付ファイルとして外に出ます。受信者がそれを受け取ったか、どのファイルを受け取ったかは、後から示すのが困難です。

気づくポイント

- 誰がアクセスできたかを尋ねられると、ITはフォルダー権限の一覧で答える。
- 似た名前の作業指示書のコピーが、いくつも出回っている。
- 提出されたPDFが後で改ざんされていないかを、誰も説明できない。
- 個人データを含む文書が、黒塗りされないままメールで外に出ていく。
- 監査のたびに、スクリーンショットとメモが山のように集まる。

02・PAPEROFFICEでの進め方

すべての記録は、 文書のある場所に残ります。

PaperOfficeは、保護、変更、確認、共有を文書そのものに記録します。監査では、メールボックスから経緯を再構築する代わりに、文書を開いて履歴を見せます。

1

分野ごとの保護レベル

Workspaceは、グループごとの権限によって分野を分けます。ComplianceのWorkspaceでは、プレビューとPDFのダウンロードに、ユーザーと時刻を記した透かしが入ります。

モジュール: WORKSPACES

2

履歴での変更

リビジョン タブには、すべての変更が、項目、変更前と変更後の値、ユーザー、時刻とともに表示されます。WORMの場合、保存期間が終わるまでファイルは変更されずに残ります。

3

真正性の確認

Trust Agentは、PDFの隠れたテキストや覆われたテキスト、埋め込まれたファイルとスクリプトをチェックします。Premium以上では、ページ画像との不一致も確認します。結果は文書に残ります。

モジュール: TRUST AGENT

4

管理された共有

共有の前に、Redact Agentが個人データを黒塗りします。安全な配信のログには、リンクの開封、ダウンロード、取り消しが記録され、証明PDFが作成されます。

モジュール: 安全なメール配信

5

監査のための証明

履歴はCSVでエクスポートでき、監査報告書はAI-DMS UltraからPDFでダウンロードできます。WORMで保護された文書については、確認リンク付きのコンプライアンス証明書を作成できます。

モジュール: 監査センター

03・アプリでの操作

証明が作られる 五つの場所。

以下の操作手順では、アプリで保護、履歴、証明を見つける場所を示します。前回の監査で役割を果たした文書で試してください。

1

Complianceの Workspaceを作成する

Document AI › Workspaces でWorkspaceを作成し、Workspace タイプ タブでComplianceを選びます。グループ権限はWorkspaceごとに、閲覧、アップロード、またはフルアクセスとして設定されます。

2

履歴を確認し、エクスポートする

文書の リビジョン タブを開き、項目の変更で絞り込み、表示された項目を エクスポート でCSVとしてダウンロードします。

3

PDFの真正性を確認する

PDFを選択し、アクション › エージェントとワークフロー › Trust のTrust Agentで確認します。証明書を表示 には、リスクスコア、判定、ページ付きの検出事項が表示されます。

4

共有の前に黒塗りする

文書を選び、アクション › エージェントとワークフロー › Redact を選択して、プレビューで一致箇所をすべて確認します。黒塗りしたコピーがWorkspaceに保存されます。

5

保護付きで送る

アクション › 共有とエクスポート › メールで送信 を使うと、最大十件の文書を保護されたリンクとして送信できます。送信履歴 にはすべてのイベントが表示され、最初のダウンロードの後には 証明PDF が表示されます。

現場からのヒント

Workspaceを作成するときに、Workspaceタイプを計画する。Workspaceは、いつでもアップグレードできます。Complianceに切り替えると、既存の外部共有は終了します。外部共有はBusiness Workspaceのための機能だからです。そのため、取引先がアクセスする分野は、別に設定してください。

04・事例

ある医療機器メーカーが、 顧客監査の前に。



従業員80名の医療機器メーカーが、顧客監査の準備を進めています。品質管理者は、誰が作業指示書を変更できるか、試験報告書がどのように保護されているか、苦情ファイルがどのようにパートナーに届くかを示さなければなりません。これまでは、すべてがネットワークドライブに置かれています。

導入前

- アクセス権は、時間とともに増えたフォルダー権限によって決まっている。
- 試験報告書の変更は、せいぜいファイルの日付に現れるだけ。
- 苦情ファイルは添付ファイルとしてパートナーに送られる。
- 監査では、スクリーンショットとメモが作られる。

PAPEROFFICE導入後

- 試験報告書は、透かし付きのComplianceのWorkspaceに保管される。
- すべての変更が、リビジョン タブにユーザーと時刻とともに表示される。
- 文書は、証明PDF付きの保護されたリンクを通じて、黒塗りされた状態で送られる。
- 履歴、Trust証明書、監査報告書が、監査のために準備できている。

説明のための例であり、実在の顧客ではありません。品質保証の担当部署と監査人との間で、監査に必要な証明が何かを合意してください。

05・チェックリスト

監査人が来る前の 十の確認点。

品質管理部門とITとともに、この一覧を確認してください。アプリでサンプルの文書を使って、各点を検証できます。

- ☐ 機微な分野は、一般的な文書とは別に、独自の Workspace に置かれている。
- ☐ Workspace ごとのグループ権限が文書化され、必要なものに限定されている。
- ☐ 承認済みの文書は、WORM保持でロックされている。
- ☐ 提出されたPDFは、Trust Agentで改ざんがないか確認されている。
- ☐ 機密ファイルは保護されたリンクを通じて送られ、証明PDFが保管されている。
- ☐ 機密文書には、Complianceという Workspaceタイプ が選ばれている。
- ☐ SMSコードまたは二人承認によるアクセス保護が設定されている。
- ☐ WORMで保護された文書の新しい版は、コメント付きのバージョンとして追加されている。
- ☐ 個人データは、共有の前にすべて黒塗りされている。
- ☐ 監査に必要な証明は、監査人と合意されている。

06・よくある質問

監査人が 定期的に知りたいこと

これは、私たちのプロセス文書に代わるものですか？

いいえ。PaperOfficeが提供するのは技術的な証明です。履歴、保持期間、バージョン、確認結果、配信のログです。プロセスを記述するのは、お客様の仕事のままです。システムは、そのための証拠を提供します。

改ざんされたPDFは、どのように見つけますか？

Trust Agentは、隠れたテキストや覆われたテキスト、埋め込まれたファイル、スクリプト、ページ画像との不一致を報告します。リスクスコアは0から100です。判断は人が行います。

誰かが文書を削除するとどうなりますか？

BusinessとComplianceのWorkspaceでは、文書はゴミ箱に入り、復元できます。WORMで保護された文書は、保持期間が終わるまで削除できません。法的保持がかかっている場合は、保持期間に関係なく削除がブロックされます。

機密文書をダウンロードした人を確認できますか？

ComplianceのWorkspaceでは、プレビューとPDFのダウンロードに、ユーザーと時刻を記した透かしが入ります。安全な配信では、リンクの開封と各ダウンロードが、時刻、場所、ネットワークとともにイベントログに表示されます。

黒塗りすると、原本はどうなりますか？

黒塗りされた版はコピーとして作成され、原本はWorkspaceに残ります。デジタルPDFでは、黒塗りの下のテキストが削除されます。スキャンでは、ページ画像が黒く塗りつぶされます。

証明は、どのように監査人に届きますか？

履歴はCSV、監査報告書とコンプライアンス証明書はPDF、さらに配信の証明PDFとして届きます。履歴と報告書は、REST APIやMCPを通じて取得することもできます。

07・始め方

前回の監査の文書を一つ確認しましょう。

アプリでComplianceのWorkspaceを作成し、試験報告書をアップロードして、**リビジョン** タブを開いてください。Trust AgentでPDFを確認し、テストとして保護された配信で自分宛てに送ってみてください。

分野を定義する

どの文書をComplianceのWorkspaceに入れるかを決め、Workspaceごとにグループ権限を割り当てます。

確認し、ロックする

提出されたPDFはTrust Agentに確認させ、承認済みの文書はWORM保持でロックします。

共有のルールを定める

共有のためにRedact Agentを設定し、機密ファイルは証明PDF付きの保護されたリンクで送ってください。

関連データシート

Workspaces

paperoffice.ai/downloads/paperoffice-ai-datasheet-workspaces-ja.pdf

Trust Agent

paperoffice.ai/downloads/paperoffice-ai-datasheet-document-integrity-check-ja.pdf

安全なメール配信

paperoffice.ai/downloads/paperoffice-ai-datasheet-audit-safe-email-delivery-ja.pdf

監査センター

paperoffice.ai/downloads/paperoffice-ai-datasheet-audit-center-ja.pdf

このテーマの関連情報

コンプライアンスのリスク

paperoffice.ai/ja/kaiketsu/problem/ai-compliance-risk-automation-prevention



このテーマの関連情報

paperoffice.ai/ja/kaiketsu/problem/ai-compliance-risk-automation-prevention

料金

paperoffice.ai/en/pricing

お問い合わせ

paperoffice.ai/ja/otoiawase